1.

* 東星（社会的成功との無縁）vs早稲田（社会的成功を前提）

4.

現在所属している学部やゼミのどのような隠れたカリキュラムが、自身の言動・選択・卒業後の進路形成に影響を与えているか、具体的に論ぜよ。

* 看板学部としてのプライド→ 優良性、優位性を印象付け、競争的にする。多くの場面でトップ国公立と比較され、社会的成功に向かってのラットレースに参加させる。
* 予算をつぎ込まれ、有益な存在、特別な存在であることを強調。豊富な資源、秀逸な環境の中での生活を日常化する。
* 「自由」な教育による主体性を掲げているが、結局は競争心と優越感により動機付けられた、「社会的成功」を目指す、拘束された人間を育成する。
* 学部の定義する「成功」＝社会的な成功。社会の中での既存のパラメーターで測れない成功は取り上げない、成功として報じない。
* 学校全体（級友）の左派的傾向が自身の確証バイアスを強めている。
* 面倒見の悪さ、自由放任→高いアスピレーションを持っていることを前提としている。富裕層。
* 周りの人間の浪費→節目ない散財を恒常化。
* 周りの人間が男だらけ→政治・経済は男、国際政治経済は女。  
  女子は他学部の子、政経の女子は変などの幻想。

1.

小中学校：

第一段落、授業内容における隠れたカリキュラム（明文化された行動規範、問題解決の授業、自由と服従の共存、

第二段落、価値風土（カルヴァン派的倫理観、排外主義、 moral superiority, 保守主義の優越、蓄財の肯定と金銭的放恣、男女差別）

高校：

第一段落、授業内容と校則（労働者的授業内容、全面的な規制。指導を受けるものと受けない者の二分→消費的基準による分画。富裕でなくとも、労働による社会的生産を行うことが存在価値とされた。）

第二段落　学校内ヒエラルキー

大学：

第一段落　自由放任型授業と主体性尊重、自由な校風（看板学部としての優越意識の涵養による競争心の促進、主体的自由→社会的成功を競う方向へのみ働く）

第二段落　価値風土　男女差別　在野精神（既存の権威を否定する＝自身の優位性を暗示。競争心からくる権威の否定という面も大きい）。多様性

2.

小中学校　SSEが高い。国際的→受験の必要なし。上流階級＝問題解決能力、管理能力、厳格な上下関係の強制による会社等の構造的組織においての上位階層での振る舞いを教える。

高校　経済格差を隠蔽。労働者階級＝細かな規則への従順。大学進学、社会的成功などの期待なし。在野精神、平民意識が強く、イデオロギー的に左翼＝労働者以外になれないという諦め。労働者階級の絶対的正当化。

大学　国立落ち等エリート志向の人間＝高いSSEの人が集中。常に一番上を視野に入れたもの、周りを見下し、自身の価値を高めようという競争心の激しい環境。自由放任型授業＝登り詰めろ

3.

問題解決能力、

規律と受動性の授業→国公立より私学向け

4.

エリート意識→ 社会的に測定する成功を欲し、それに向かって努力するような競争心を駆り立てている。君らは優秀だ、君らは優れている、君らは他より上なんだ。「上」への執心を促す。